

注釈・引用文献・参考文献の記載方法について

1. 注釈・引用文献・参考文献の文中注記法について

※文中に注釈・引用文献・参考文献を表記する方法です。文末の一括表記法は次を確認して下さい。
※文中に注釈・引用文献・参考文献を表記するときは、注釈・引用文献・参考文献を分けて表記する。

《注釈》

〔例〕：(注 1)、(注 2)

※上付き文字にする必要はありません。

《引用文献》

〔例〕：(淡路, 2009, p.24)

〔例〕：(加藤, 2007a, p159)(加藤, 2007b, p.89)

◎引用文末尾に著者名(姓のみ)・発表年・引用ページを表記する。

◎同一人物の同一年度で、別の引用文献や参考文献がある場合は、a,b という記号で区別する。

《参考文献》

〔例〕：(加藤・杉岡, 2010)

〔例〕：(加藤, 2006; 淡路, 2009)

◎参考にした箇所の末尾に著者名(姓のみ)・発表年を表記する。

◎複数の場合は; (セミコロン)でつなぐ。

2. 注釈・引用文献・参考文献の文末一括表記法について

※注釈と引用 参考文献に分けて記載する。

《注釈》

〔例〕

【注釈】

1. この問題については……

2. ……

◎本文の注釈の番号に対応して、通し番号順に記す。

【引用・参考文献】

〔例〕

- ・淡路和孝(2009)「2006(平成 18)年度以降の在宅介護支援センターの現状と課題～堺市堺区における在宅介護支援センターの活動からの考察～」『大阪社会福祉士第 15 号』
- ・加藤貴久(2005)「知的障害のある生徒の高等学校受入れに係る調査研究校の実態と課題～調査研究校関係者のインタビュー調査から～」『大阪社会福祉士第 11 号』
- ・加藤貴久(2006)「学習サポーターの派遣研修体制の確立に向けて～知的障害のある生徒の受入れに係る調査研究の取り組みから～」『大阪社会福祉士第 12 号』
- ・加藤貴久(2007a)「高等学校における知的障害のある生徒の受け入れと学習サポーターの取り組みについて」『オープンカレッジ研究第 9 号』
- ・加藤貴久(2007b)「教育現場のインクルージョンにおける支援者の必要性について」『大阪社会福祉士第 13 号』
- ・加藤貴久・杉岡啓二(2010)『高等学校における特別支援教育の実践』あいり出版

◎著者のアルファベット順で並べる。

◎同じ著者のものは年代の古いものから順番に並べる。

◎著者名(年代)「論文名」『雑誌名』出版の順で記す。

◎引用文献も参考文献も一括して記載する。